

# プリンタ世界市場に関する調査を実施（2017年）

## 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてプリンタ(出力機器)の世界市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2017年4月～7月
2. 調査対象:プリンタ(出力機器)メーカー・販売店/パートナー・各種部材メーカー
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

### <プリンタとは>

本調査におけるプリンタ(出力機器)とは、オフィス向け(ページプリンタ【中-低速】、MFP【複合機/複写機】、インクジェットプリンタ)、業務用/産業向け(シリアル・インパクト・ドット・マトリクスプリンタ【SIDM】、ライン・インパクト・ドットプリンタ、プロダクションプリンタ、LFP(Large Format Printer:大判プリンタ)、コンシューマ向け(フォトプリンタ・インクジェットプリンタ)の各機器を対象とした。

また、プロダクションプリンタは、従来のデジタル印刷機に、ページプリンタ【高速】などトランザクション系プリンタを加えて算出した。

## 【調査結果サマリー】

### ◆ 2016年度のプリンタ世界出荷台数は前年度比97.0%の1億40万台

2016年度のプリンタ(出力機器)世界出荷台数は、メーカー出荷ベースで前年度比97.0%の1億40万台であった。2017年度と同出荷台数を前年度比98.0%の9,840万台と予測する。2016年度は中国経済の減速に加えて、アメリカやユーロ圏の企業の一部に弱めの動きが広がり、先行き不透明な景況感が漂ったことや、為替変動によるリスクが市場に影響し、プリンタの世界出荷台数は伸び悩んだ。2017年度も経済成長の鈍化が見込まれ、プリンタの世界出荷台数は減少すると予測する。

### ◆ 2016年度のプリンタ世界出荷金額は前年度比94.9%の5兆9,500億円

2016年度のプリンタ(出力機器)世界出荷金額は、メーカー出荷ベースで前年度比94.9%の5兆9,500億円であった。景況感が不安定なことや為替変動によるリスクが民間企業の設備投資に影響し、経済成長の鈍化が見込まれることから、2017年度と同出荷金額は前年度比97.5%の5兆8,000億円になると予測する。

### ◆ 大幅な成長トレンドで、デジタルラベル印刷機の世界出荷台数を2021年度に1,550台と予測

2016年度のデジタルラベル印刷機の世界出荷台数は、メーカー出荷ベースで前年度比114.0%の980台であった。ラベル印刷機はデジタル化率が低く、デジタル化への潜在的なニーズが注目されていることなどから、デジタルラベル印刷機世界市場の大幅成長のトレンドは今後も続き、2021年度の世界出荷台数は1,550台に、同出荷金額は570億円に達すると予測する。

### ◆ 資料体裁

資料名:「2017ビジネスプリンタ市場の実態と展望」  
 発刊日:2017年7月27日  
 体裁:A4判 468頁  
 定価:190,000円(税別)

### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:[press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

## 【 調査結果の概要 】

### 1. 出荷概況と将来予測

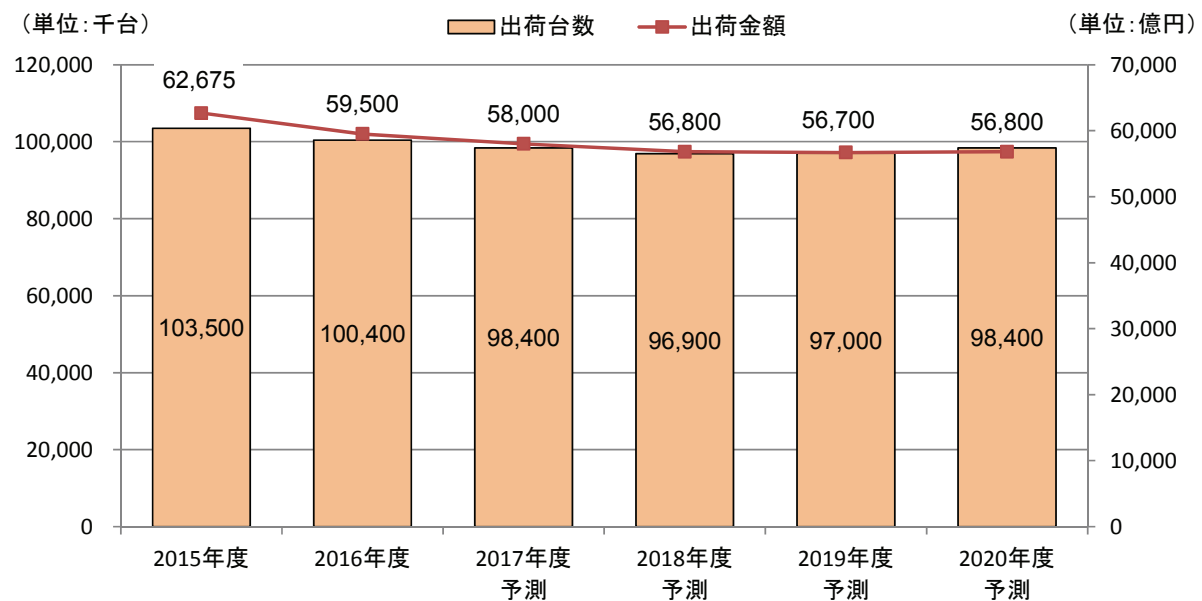
2016年度のプリンタ(出力機器)世界出荷台数は前年度比97.0%の1億40万台、同出荷金額は同94.9%の5兆9,500億円(いずれもメーカー出荷ベース)となった。

2016年度は中国経済の減速に加えて、アメリカやユーロ圏の企業の一部に弱めの動きが広がったことで先行き不透明な景況感が漂ったことや、為替変動によるリスクが影響し、市場は縮小した。分野別に世界市場を見ると、オフィス向けプリンタは大容量インクタンク搭載プリンタが好調ではあるものの、単価が下落傾向にある機器も多く、オフィス向け全体としては伸び悩んでいる。一方、業務用/産業向けプリンタは2016年度も総じて好調で、同分野を注力分野のひとつとしているプリンタメーカーは増加基調にある。プロダクションプリンタなどでは、高生産性機種や高付加価値機へのシフトが進んでいる。

2016年度下期に入ると、中国経済には持ち直しの動きが見られるようになったが、民間企業における設備投資の伸びは弱く、また、アメリカの政策動向やユーロ圏の景況感是不安定であることから2017年度も経済成長の鈍化が見込まれる。これらの状況を踏まえ、2017年度のプリンタ世界出荷台数を前年度比98.0%の9,840万台、同出荷金額は同97.5%の5兆8,000億円(いずれもメーカー出荷ベース)と予測する。

なお、日本国内におけるプリンタ(出力機器)市場は、GDPこそ堅調に推移したものの、為替レートが円高に動いたことなどにより企業の設備投資に慎重さが見られたことで、世界市場同様に縮小した。オフィス向けプリンタでは、コストなどの面から社内向け資料の出力にインクジェットプリンタを利用する企業が国内でも増加傾向にあり、ビジネスインクジェットプリンタが好調である。

図1. プリンタ(出力機器)世界市場予測



矢野経済研究所推計

注1. 出荷台数、出荷金額ともにメーカー出荷ベース

注2. 2017年度以降は予測値

注3. オフィス向け(ページプリンタ【中-低速】、MFP【複合機/複写機】、インクジェットプリンタ)、業務用/産業向け(シリアル・インパクト・ドット・マトリクスプリンタ【SIDM】、ライン・インパクト・ドットプリンタ、プロダクションプリンタ、LFP(Large Format Printer: 大判プリンタ)、コンシューマ向け(フォトプリンタ・インクジェットプリンタ)の各機器を対象とした。

注4. プロダクションプリンタは、従来のデジタル印刷機に、ページプリンタ【高速】などトランザクション系プリンタを加えて算出した。

※関連市場資料: デジタル印刷市場に関する調査を実施(2017年) 2017年8月29日発表

<http://www.yano.co.jp/press/press.php/001724>

## 2. 注目すべき動向～デジタルラベル印刷機

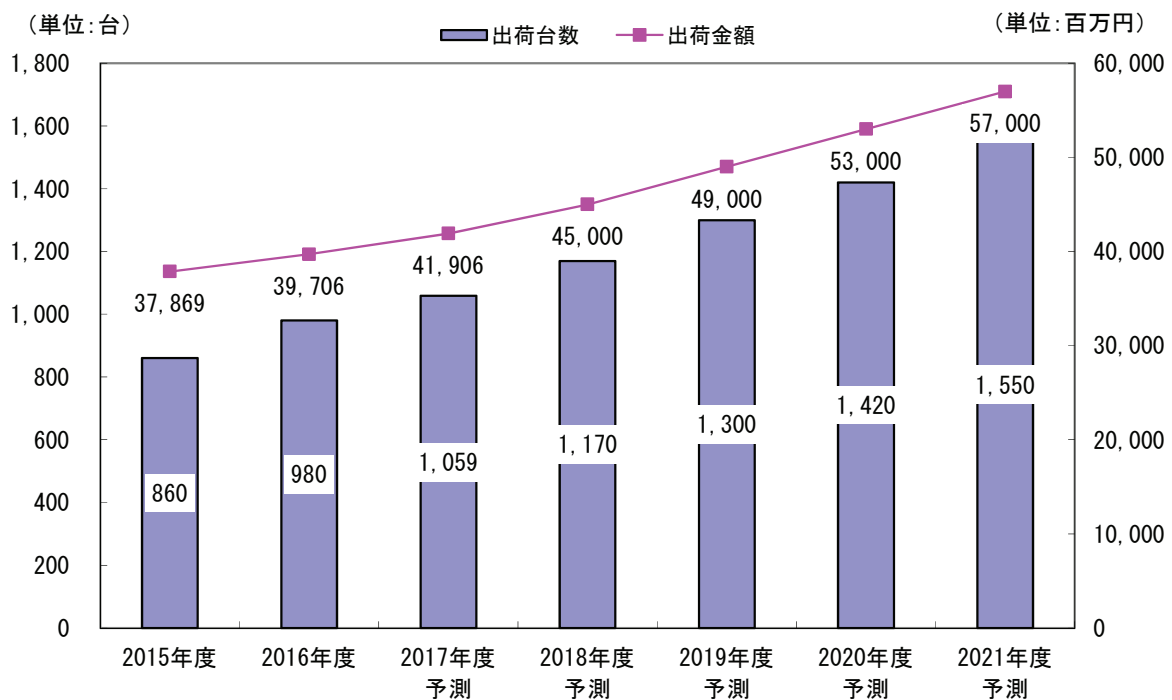
2016年6月に開催された drupa2016(独・デュッセルドルフで4年に1回開催される印刷総合見本市)の好影響を受け、2016年度のデジタルラベル印刷機の世界出荷台数(メーカー出荷ベース)は前年度比114.0%の980台と順調に成長した。

近年、商業印刷分野に加えてデジタルプリンタ市場で特に注目されているのが、デジタルラベル印刷機で、各印刷機メーカーも需要先のターゲットを商業印刷分野から産業軽印刷分野へと間口を広げている。市場活性化の一因には、インクジェット専用のデジタルラベル印刷機が数多く発売されたことなどが挙げられる。

しかしそれ以上にデジタルラベル印刷機市場は、他の商業印刷と比較して、利用されているラベル印刷機のデジタル化率が低く、ユーザー側のデジタル化に対する期待値が大きいことで注目されている。デジタルラベル印刷機市場の大幅成長のトレンドは今後も続き、2021年度と同出荷台数は、1,550台に、出荷金額は570億円に達すると予測する。

なお、日本国内においても、デジタルラベル印刷機は世界市場同様に好調で、2017年度以降も成長トレンドが続く見通しである。その用途もコーション(警告)ラベルや貼付ラベル、工業用ラベル、医療用ラベルに加え、一般のアパレルタグや洋酒・日本酒・ワインのボトルラベル、銘板(仕様表示)ラベルなどに拡大している。

図2. デジタルラベル印刷機世界市場予測



矢野経済研究所推計

注5: 出荷台数、出荷金額ともにメーカー出荷ベース

注6: 2017年度以降は予測値

注7: デジタルラベル印刷機世界市場は、プリンタ(出力機器)世界市場の内数